

世界 LNG 動向 2023 年 8 月

橋本裕*

はじめに

西豪州の大型 LNG プロジェクト 3 件において、労使交渉が行われており、この内 2 件では、本稿執筆時点で合意に至らず、9 月 7 日以降、争議行為が行われ、LNG 出荷に遅延ないし、削減などの影響が生じる可能性がある。

今年前半以降の LNG・ガス価格低下の影響が業績に反映された第 2 四半期業績が、LNG 供給各社より発表されて、概ね価格低下状況を理由として利益減となっている。こうした中でも各社、手掛けている LNG 生産プロジェクトに関して、順調な進展を発表している。

既にメキシコ湾岸のルイジアナ州 Sabine Pass Liquefaction (SPL)、テキサス州 Corpus Christi Liquefaction (CCL) の 2 プロジェクトより、米国最大年間容量 4500 万トン分の LNG 生産設備を持つ Cheniere Energy 社は、SPL プロジェクト隣接で推進している、最大 3 液化系列生産容量合計年間 2000 万トンの SPL 拡張プロジェクト開発状況を説明した。

さらに CCL プロジェクト隣接で、Mid-Scale 液化系列 7 本・合計年間 1000 万トン超の拡張プロジェクト (CCL Stage 3) を建設しており、その進捗を 38.1% と説明した。さらにその隣接に Mid-Scale 液化系列 2 本・合計年間 300 万トンを計画している (CCL Mid-Scale 8 & 9 プロジェクト)。

日本企業も出資し、引き取り長期契約もあるルイジアナ州 Cameron LNG プロジェクトを操業する Sempra 社は、Cameron LNG 第 2 段階プロジェクトについて、競争型 FEED プロセスが進行中であり、2024 年の投資決定を目指していることを明らかにした。

同社はまた、3 月に FID を行った容量年間 1350 万トンのテキサス州 Port Arthur LNG 第 1 段階プロジェクトの所有権を、株主間の配分で自社分を 28% に確定する見込みであることを明らかにした。

さらに同社は、メキシコ太平洋岸にて LNG 輸入基地に併設して建設中の Costa Azul LNG 輸出第 1 段階プロジェクトについて、引き続き 2025 年夏までに稼働開始見込みである、と述べた。

[アジア太平洋]

大阪ガス株式会社と ENEOS 株式会社は、2023 年 8 月 29 日、大阪港湾部におけるグリーン水素を活用した国産 e-methane の大規模製造に関する共同検討を開始したことを発

* 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

表した。海外で製造したグリーン水素を、メチルシクロヘキサン（MCH）に変換して輸送し、国内で回収した二酸化炭素（CO₂）と組み合わせ、2030 年までに大阪港湾部にて 6000 万 m³/年規模での製造設備構築および製造開始を目指す。

SHPGX (上海石油天然气交易中心) は、2023 年 8 月 23 日、シンガポール Pavilion Energy が CNOOC (中国海油) が販売する LNG カーゴ 1 件について支払うため、人民元を使うことを発表した。

中国国家统计局は、2023 年 8 月 15 日、天然ガス生産が 1-7 月合計 1340 億 m³ (134 bcm) と前年同期比 5.7%増となったことを明らかにした。7 月の天然ガス生産は 184 億 m³ (18.4 bcm) と前年同月比 7.6%増、同月のガス輸入は 1031 万トンと同 18.5%増となった。

豪州洋上労働組合連合 Offshore Alliance (OA) は、2023 年 8 月 29 日、Wheatstone、Gorgon LNG 設備が、保護された労働争議通知の一環として、9 月 7 日より、順次作業停止、一部業務の「禁止・制限」を開始する、と述べた。「Chevron が交渉上の組合側諸条件に合意するまで、週毎にエスカレートする」と OA は述べた。

Chevron Australia は、2023 年 8 月 23 日、自社 Wheatstone プロジェクトが、国内供給用ガス設備の生産量増加のための技術改善・改造を実施したことを発表した。同国内向けガス設備の公式設計容量は、日量 205 テラジュール (TJ) から 215 TJ (年間 144 万トン) に、5%増加する。

豪 Woodside Energy は、2023 年 8 月 24 日、Australian Workers' Union、Electrical Trades Union、その他、交渉における代表者達と、North West Shelf 沖合プラットフォーム従業員を対象とする労使協定に、原則合意したことを発表した。次のステップとして、労使協定を最終化し、従業員達により投票採択され、公正労働委員会により承認されるべきこととなる。

西豪州 (WA) 政府は、2023 年 8 月 15 日、Perth、Canning 地域についての WA 州内ガス政策を更新したことを発表した。陸上地域での生産ガスを、既存パイプライン網を通じて輸出することを禁じる。州内エネルギーセキュリティ確保のため、同州政府は、Perth 地域分含め、LNG 輸出のため既存パイプライン網での陸上ガス開発を同州内ガス政策からの適用除外を検討しない。既存パイプライン網からのガスは、西豪州の工業・消費者向けのみとなる。Canning 地域について、これらガス資源は既存パイプライン網と接続しておらず、同州内ガス政策の通常適用となり、ガスプロジェクト開発者に輸出の 15%相当を州内市場向けに用意することを義務付ける。Waitsia 合弁事業は、2028 年末まで、North West Shelf LNG 設備を通じて、Perth 地域陸上 Waitsia ガス田からのガスを用いて、750 万トンの LNG を処理する承認を受けている。Waitsia 合弁事業の LNG 輸出承認は、同州パイプラインガスの輸出を禁じる同州内ガス政策の例外として承認された。

Woodside、エルエヌジージャパン株式会社は、2023 年 8 月 8 日、Scarborough 合弁事業出資参加、LNG 引き取り可能性、新エネルギー分野協力の 3 要素での戦略関係を発表した。Woodside は Scarborough 合弁事業 10%譲渡に関する契約をエルエヌジージャパン

と締結した。Woodside、エルエヌジー・ジャパンは、2026 年から 10 年間、年間 12 カargo (90 万トン) の LNG 売買に関する非拘束基本合意 (HOA) を締結した。

INPEX、TotalEnergies は、2023 年 8 月 21 日、各々現地子会社を通じて、従来 PTTEP が保有している豪州 AC/RL7 鉱区の、74%、26%を各々取得することに合意したことを発表した。本鉱区は、西豪州北方沖合に位置し、Ichthys LNG プロジェクトに天然ガスを供給する Ichthys ガス・コンデンサート田の北東約 250 km の場所にある。

豪 Santos は、2023 年 8 月 7 日、自社および Bayu-Undan 合弁事業パートナーが、ティモールレステ国有石油企業 TIMOR GAP との間で、同国沖 Bayu-Undan 炭素回収・貯留 (CCS) プロジェクトでの協力可能性に関して、基本合意 (MOU) を締結したことを発表した。今回の MOU は、Bayu-Undan CCS 向け CO₂ 供給への 4 本の非拘束 MOUs に続くもので、それらは Bayu-Undan CCS への CO₂ 貯蔵需要が年間 1000 万トンを超える可能性が高いことを示す。TIMOR GAP との MOU は Bayu-Undan CCS に関する情報共有、TIMOR GAP による Bayu-Undan CCS プロジェクトへの出資参加含むパートナーシップ関係を検討する。Santos は Bayu-Undan にて、オペレーター権と 43.4%を所有する。残りは SKE&S (25%)、INPEX (11.4%)、Eni (11%)、Tokyo Timor Sea Resources (9.2%) が所有している。

豪 Santos は、2023 年 8 月 23 日、自社同年上半期業績報告の中で、Bayu-Undan 原料ガスより年内さらに 1 cargo は生産見込みで、その後同ガス田の残りのガスは、国内市場に向ける見込みと述べた。2023 年末までに掘削を再開できれば、Barossa プロジェクトからの生産は 2025 年上半期に期待している。

インドネシア上流部門規制機関 SKK Migas は、2023 年 8 月 17 日、Tangguh LNG 第 3 系列建設・コミッショニング作業が完了した、と述べた。LNG 生産開始は、2023 年 9 月目標としている。

豪 Santos は、2023 年 9 月 1 日、Kumul Petroleum Holdings Limited にパプアニューギニア PNG LNG の 2.6%持分を譲渡する売却契約を締結したことを発表した。12 月 31 日までに同国競争規制機関の承認を得ることが取引完了条件となる。Santos は追加 2.4%持分取得も Kumul 側にコールオプションとして認めた。同オプションは 2024 年 6 月 30 日が行使期限となる。2022 年 9 月 27 日、Santos は Kumul から 5%取得オファーを受けたことを発表した。

[北米]

Cheniere Energy は、2023 年 8 月 3 日、同年第 2 四半期業績報告にて、SPL プロジェクト (Sabine Pass LNG) 隣接で、最大 3 液化系列生産容量合計年間 2000 万トンの拡張プロジェクト ("SPL Expansion Project") を開発していることを説明した。2023 年 5 月、Cheniere Partners の複数の子会社により、FERC (連邦エネルギー規制委員会) で、NEPA (連邦環境政策法) に基づく、プレファイリング (事前審査手続き) を開始、2023 年 4 月には、

Bechtel と FEED 契約を締結した。Cheniere は SPL プロジェクトで、6 系列合計年間 3000 万トン分容量を運転している。

米 Cheniere Energy 社は、2023 年 8 月 22 日、Cheniere Marketing, LLC が BASF と長期 LNG 売買契約 (SPA) を締結したことを発表した。BASF は、最大年間 80 万トン、FOB (本船渡し) 条件、ヘンリーハブ連動購入価格プラス固定液化手数料にて購入することに合意した。引き渡しは 2026 年半ばに開始予定で、レイジアナ州 Sabine Pass 液化拡張 (SPL Expansion) プロジェクト最初の系列 (第 7 系列) 最終投資決定 (FID) を条件として、同系列稼働開始とともに年間 80 万トンに増量する。SPA 期間は 2043 年までとなる。SPL Expansion プロジェクトは総容量最大年間 2000 万トンで開発されている。

Cheniere Energy は、2023 年 8 月 3 日、同年第 2 四半期業績報告にて、CCL プロジェクト隣接で、ミッドスケール液化系列 7 本・合計年間 1000 万トン超の拡張プロジェクトを建設していることを説明した ("CCL Stage 3 Project")。さらにその隣接にミッドスケール液化系列 2 本・合計年間 300 万トンを開発している ("CCL Midscale Trains 8 & 9 Project")。2023 年 3 月、同社複数子会社が、後者プロジェクトの立地・建設・操業許可を FERC に、NGA (連邦天然ガス法) に基づき申請した。2023 年 4 月、DOE (連邦エネルギー省) に、FTA・非 FTA 諸国への輸出許可を申請した。

Sempra は、2023 年 8 月 3 日、同年第 2 四半期業績報告にて、Cameron LNG 第 2 段階プロジェクトについて、競争型基本設計 (FEED) プロセスが進行中と述べた。Cameron LNG JV は最近、Bechtel に、同プロジェクトについての追加エンジニアリング作業発注を通知したことも明らかにした。そして両者は、エンジニアリング・調達・建設 (EPC) 契約条件を交渉している。Sempra Infrastructure はこのプロセスが秋まで続き、投資決定を 2024 年に行う見込みとしている。

東京ガス、大阪ガス、東邦ガス、三菱商事は、2023 年 8 月 30 日、Sempra Infrastructure Partners LP と、e-methane を米メキシコ湾岸で製造・液化し、国際的に輸送するサプライチェーン確立に向けた検討に関する基本合意書を締結したことを発表した。年間 13 万トンの e-methane を製造、レイジアナ州南西部の三菱商事が液化能力を有する Cameron LNG 設備にて液化し、日本に輸出することを目指す。東京ガス、大阪ガス、東邦ガス、三菱商事は 2022 年より本プロジェクトの実現可能性に関する詳細検討を行ってきた。

Sempra は、2023 年 8 月 3 日、同年第 2 四半期業績報告にて、Sempra Infrastructure Partners は、Port Arthur LNG 第 1 段階プロジェクトの所有権を、28%の間接所有に固める見込み、と述べた。この取引は、2023 年第 3 四半期に完了見込み。Port Arthur ハブのもうひとつの要素は、Louisiana Connector パイプライン開発である。Sempra Infrastructure は、テキサス州ジェファーソン郡 Titan Carbon Sequestration プロジェクトに向けた細孔スペースも取得した。

Tellurian Inc. は、2023 年 8 月 7 日、コーポレートでのプレゼンテーションにて、Driftwood プロジェクトの資金調達について、Blue Owl 社不動産部門より 10 億米ドルの

コミットメントを確保した、と述べた。ここまでに Tellurian 社は 10 億米ドル超を投資しており、同プロジェクトコストに関して追加 10 億米ドルのコミットメントを確保している。Driftwood 第 I 段階は、Bechtel が 2022 年 4 月着工した。Tellurian は Bechtel との限定推進通知を 2023 年延長し、2022 年からのプロジェクト作業を継続している。同プロジェクトは、第 I 段階の重要領域全て整地し終え、同段階の支柱 45%程度打ち込み、コンプレッサー基礎を敷き詰めている。この用地作業進展は、プロジェクト遂行上・時期のリスクを緩和し、Driftwood 参加企業には大きな利点となる。しかし翌日、Tellurian は、Gunvor 社向けに Driftwood プロジェクトから LNG を販売する取引が打ち切りとなった、と述べた。Driftwood の支えとなるもう 2 本、Shell、Vitol との供給取引も 2022 年にキャンセルされた。これら 3 件とも、10 年間、TTF、JKM 連動価格で LNG を供給する筈だった。

Venture Global LNG は、2023 年 8 月 10 日、自社ルイジアナ州 Plaquemines LNG 輸出設備が最初の 2 本の液化モジュールを受け入れたことを発表した。

米 DOE (連邦エネルギー省) 化石エネルギー・カーボンマネジメント局は、2023 年 8 月 18 日付で、Lake Charles Exports, LLC (LCE) より、年間 8510 億立方フィート (1771 万トン) 相当の米国産 LNG を、非自由貿易協定 (Non-FTA) 諸国に輸出する長期複数契約承認を求める申請の受理を通知した。

Delfin Midstream 社は、2023 年 8 月 23 日、北米で開発中の自社大水深港湾プロジェクト向けの浮体 LNG 生産 (FLNG) 船舶開発のため、Wison Offshore & Marine (恵生海洋工程) との間で、設計・エンジニアリング契約を締結したことを発表した。コモディティ取り扱い会社 Hartree Partners LP 社が、Delfin に代行して中国 LNG 買主向けの販売活動を実施しており、Delfin は北米で追加の大水深港湾プロジェクト開発を促進している。Delfin は、FLNG 船舶 4 隻・合計輸出容量年間 1330 万トンの Delfin LNG Deepwater Port プロジェクトを開発している。同社は LNG 販売・液化サービスに関する商業上の複数の契約を確保し、最初の FLNG 船舶 2 隻の FID に向けた最終段階にあるとする。

Commonwealth LNG は、2023 年 8 月 14 日、Kimmeridge Energy Management Company, LLC 傘下の複数の民間ファンドより、開発資金を確保したことを発表した。Commonwealth LNG がルイジアナ州キャメロンの自社年間 930 万トン LNG 輸出設備に最終投資決定 (FID) を行うため必要な開発資金確保が完了するとのこと。Commonwealth LNG ・Kimmeridge はまた、同設備からの 20 年間・年間 200 万トンの LNG 引き取りコミットメント、これに伴う原料ガス供給に関しても、諸条件に原則合意した。同社はさらに、最近の LNG マーケティング進展、FEED 完了、Technip Energies との EPC 契約締結で、Commonwealth は 2027 年初に LNG の買主への引き渡しを開始できる、と述べた。

米 Commonwealth LNG は、2023 年 8 月 21 日、Baker Hughes との間で、ルイジアナ州キャメロン郡で開発中の Commonwealth LNG 設備に関する戦略協定を発表した。Baker Hughes の LM9000 航空転用ガスタービン技術を用い、生産量最大化・排出量最小化を検討する。LM9000 機器の発注は、2024 年第 1 四半期に期待される Commonwealth

LNG プロジェクトのフィナンシャルクローズ時点に見込まれる。Commonwealth LNG は 2027 年初の生産開始を目標としている。

カナダ Haisla Nation、Pembina Pipeline は、2023 年 8 月 3 日、両者の Cedar LNG プロジェクトは 2022 年末に浮体 LNG 生産船舶の 2 件目の基本設計 (FEED) 作業を進めることを選択し、この作業が最初の FEED と同じ段階まで進展するのを待っていることを発表した。LNG Canada、Coastal GasLink 間の詳細商談、進行中の交渉とともに、これにより最終投資決定 (FID) 見通しが 2023 年第 4 四半期に修正された。7 月 6 日、Cedar LNG はブリティッシュコロンビア州エネルギー規制機関より LNG 設備承認を受けた。B.C. 環境アセスメント部よりの環境アセスメント証明、連邦環境・気候変動相の支持決定、Cedar LNG パイプラインの Coastal GasLink パイプラインへの接続許可に続くものである。両者は、ARC Resources 社との覚書 (MOU) に加え、Cedar LNG は長期の液化業務に関して、複数の投資適格の相手方と非拘束 MOUs を締結しており、プロジェクト総容量について満杯の申し込みを受けている、と述べた。

McDermott は、2023 年 8 月 7 日、カナダ Woodfibre LNG プロジェクトの建設を、自社の中国の組み立てヤードで開始したことを明らかにした。

Sempre は、2023 年 8 月 3 日、同年第 2 四半期業績報告にて、太平洋岸 Energía Costa Azul LNG 第 1 段階プロジェクトについて、建設が続いており、引き続き 2025 年夏までに稼働開始見込みである、と述べた。

Mexico Pacific、ConocoPhillips は、2023 年 8 月 3 日、ConocoPhillips が、Mexico Pacific の旗艦 LNG 輸出設備メキシコ西部プエルトリベルタッド Saguaro Energía の第 1、2、3 系列を通じて、年間 220 万トンの LNG を引き取る売買契約 (SPAs) を締結したことを発表した。ConocoPhillips はさらにそれ以降の拡張からの数量を引き取るオプション権を持つ。ConocoPhillips は FOB (本船渡し) 条件で、20 年間、LNG を購入する。完全稼働すれば、同設備第 1 段階は、3 系列・合計容量年間 1500 万トンを持つこととなる。

New Fortress Energy (NFE) は、2023 年 8 月 8 日、アルタミラの FLNG1 向け最初のリグが同年第 2 四半期に設置され、同第 3 四半期の商業稼働開始を目標とする、と述べた。

[中東]

アブダビ ADNOC Gas plc は、2023 年 8 月 17 日、石油資源開発株式会社 (JAPEX) との 5 年間の LNG 供給契約を発表した。

スペイン Técnicas Reunidas 社は、2023 年 8 月 21 日、カタール QatarEnergy が、North Field South プロジェクトの LNG 区画外のパイプライン類、接続設備、随伴システム、補助的要素設備の追加エンジニアリング・調達・建設 (EPC) 作業を発注したことを発表した。Técnicas Reunidas は、同拡張プロジェクトにおけるコンデンセート、LPG、MEG 貯蔵・配給、関連随伴設備の EPC 作業を実施している。Técnicas Reunidas はまた、North Field 拡張プロジェクトにおける硫黄取り扱い設備の EPC 作業を Wison Engineering Ltd. (恵生

工程)との合弁事業により実施している。新たな作業範囲は、一連の区画外設備のエンジニアリング・調達・建設・コミッショニングを含む。これには LNG 移送ライン、ボイルオフガス (BOG) 回収、ラスラファン工業都市 (RLIC) 南部を、新規貯蔵タンク群・輸出関連設備と接続するユーティリティパイプラインを含む。同プロジェクト範囲には、LNG タンク群、LNG 積み込み栈橋 1 本、BOG コンプレッサー群、関連機器のコミッショニングも含む。契約総額は、約 5.60 億米ドルとしている。

オマーン Oman LNG、ドイツ SEFE (Secure Energy for Europe) は、2023 年 8 月 14 日、2026 年から 4 年間、年間 40 万トンの LNG 供給に関して、拘束力ある基本合意 (タームシート) を締結したことを発表した。2023 年 8 月 30 日、Oman LNG が Shell 社中東トレーディング子会社と、2025 年から 10 年間、年間 80 万トンの LNG 供給契約を締結した。Oman LNG はまた、自国政府が所有する OQ Trading 社向けに、2026 年から 4 年間、年間 75 万トンを提供することにも合意した。

イスラエルのエネルギー・インフラストラクチャー省は、2023 年 8 月 24 日、Tamar ガス田の天然ガス生産量を、2026 年から、年間 6 BCM (60 億 m³)、容量を 60%増加する計画を促進していることを発表した。

[アフリカ]

Eni は、2023 年 8 月 28 日、コートディヴォワール沖で 2021 年 9 月に発見した Baleine 油・ガス田からの生産を開始したことを発表した。アフリカで最初のスコープ 1・2 での排出なしの生産プロジェクトであるとする。排出を最小化する利用可能な最善技術を活用する。残りの排出は、調理用の木材、石炭の必要を排する調理器具の配給などの、同国内での活動により相殺される。同時に自然ソリューションプロジェクトの調査も開始している。

bp は、2023 年 8 月 1 日、同年第 2 四半期業績のプレゼンテーションにおいて、セネガル・モーリタニア沖 Greater Tortue Ahmeyim (GTA) ガス・LNG 開発第 1 段階は、2024 年第 1 四半期稼働開始見込みであることを明らかにした。

イタリアのエンジニアリング企業 Saipem は、2023 年 8 月 10 日、Eni Congo より契約を受注したことを発表した。Scarabeo 5 半潜水型掘削機器を、分離・送出設備 (浮体生産設備 - FPU) に改造する契約。この FPU は、井戸元のライザープラットフォームから流体を受け入れ、液体成分からガスを分離し、近隣の浮体 LNG 生産 (FLNG) 設備にガスを送出する、半潜水型生産プラットフォームである。同 FSU 設備コミッショニング作業、稼働開始は 2025 年第 1 四半期までに予定する。同契約は、2025 年から年間 300 万トンの LNG 生産容量に到達する見込みの Eni の Congo LNG プロジェクトの一環である。

[欧州・周辺地域]

PRISMA は、2023 年 8 月 23 日、AggregateEU プラットフォームによる第 3 回入札を 9 月 21 日より、27 日まで需要集約手続きを実施することを発表した。提出された需要を集

約した上で、応募される売主側のオファーとマッチされるとしている。今回のプロセスでは、需要と供給の応札は、2023 年 11 月から 2025 年 3 月分となる。

オランダ ロッテルダム Gate 基地およびその株主 Gasunie、Vopak は、2023 年 8 月 23 日、同基地貯蔵・気化容量拡張の FID（最終投資決定）を発表した。180,000 m³ 新規貯蔵タンク、年間 4 BCM（40 億 m³）気化容量である。この新規容量は既に長期契約で貸し出しが決まっており、2026 年下半期稼働準備完了となる。Gate 基地全てのプロジェクトが完成すれば、総気化容量は年間 20 bcm（200 億 m³）となる。

ドイツ ムクラン港の民間所有 LNG 基地操業企業 Deutsche ReGas は、2023 年 8 月 9 日、Deutsche Ostsee LNG プロジェクト計画中の第 II 段階でオファーした気化容量全部を、複数企業が予約したことを発表した。Deutsche ReGas は、合計年間 4 Bcm（40 億 m³）容量が 10 年間以上オファーされた、と述べた。この追加容量は、既存の Deutsche ReGas が TotalEnergies から備船し 2023 年 1 月から操業している既存の Neptune FSRU、現在は Lubmin LNG とされるものとは別のもう 1 隻の浮体貯蔵・気化設備より提供されることとなる。Deutsche ReGas はまた、残り数量を後日、短期ベースで予約可能な形でオファーする計画である。

ノルウェー Equinor は、2023 年 8 月 8 日、自国政府が Snøhvit 参加企業による Snøhvit ガス田・Hammerfest LNG 設備の将来の操業計画を承認したことを発表した。2028 年から陸上での圧送、2030 年から同設備の電化を含む。

スペイン Enagás は、2023 年 8 月 11 日、ヒホンの El Musel LNG 基地が、本格稼働に先立つ最終技術試験を経て、Endesa の最初の船 180,000 m³ 容量 'Gaslog Warsaw' を受け入れたことを発表した。Enagás が実施した容量配分手続き（オープンシーズン）を経て、7 月 31 日、Endesa は同基地ロジスティックスサービス契約を受注した事業者として、操業を開始した。7 月に同基地は本格稼働前の必要な技術的作業として 2 隻を受け入れた。

ドイツ RWE は、2023 年 8 月 24 日、チェコ共和国国有送電網操業企業 ČEP, a.s. が、RWE との間で、RWE Gas Storage CZ, s.r.o. の譲渡に関して合意したことを発表した。RWE Gas Storage CZ, s.r.o. は、チェコ共和国最大のガス貯蔵設備操業企業で、6 件の地下ガス貯蔵設備に操業数量 2.7 bcm（27 億 m³）以上を持つ。この取引は 2023 年中に完了見込みである。

ポーランド GAZ-SYSTEM は、2023 年 8 月 18 日、GAZ-SYSTEM・ORLEN がグダニスク湾 Gdańsk FSRU 基地気化業務に関する契約を締結したことを発表した。同 FSRU（浮体貯蔵・気化設備）プロジェクトは、年間 61 億 m³（6.1 bcm）気化プロセスを提供する見込み。GAZ-SYSTEM は現在、第 2 の FSRU 基地年間 45 億 m³（4.5 bcm）分のオープンシーズン（容量利用者公募）手続きを実施している。

ロシア Novatek は、2023 年 8 月 13 日、ギダン半島 Utrenneye ガス田の Arctic LNG 2 プロジェクトの最初の GBS（コンクリート製着床型構造物）プラットフォーム設置を完了したことを発表した。同プロジェクトは、各年間 660 万トン容量の LNG 生産設備 3 系列を

計画している。

[南米]

パナマ運河当局 (ACP) は、2023 年 8 月 16 日付の海運業界向け通知で、利用可能な閘門の大きな部分の予約条件の制限を、9 月 2 日まで維持することを明らかにした。ACP は従来、この制限を 8 月 21 日に終了する計画だった。同運河は、現在大幅な渇水条件に直面しており、同当局は運河の航行数を、通常平均の 36 隻から、2023 年残りの期間および 2024 年の一部について、32 隻に制限せざるを得なかった。

大阪ガス、丸紅、PERU LNG S.R.L. は、2023 年 8 月 22 日、Peru LNG 設備での e-methane 製造・液化に関する検討 (Pre-FEED) を開始する契約を締結したことを発表した。2022 年 7 月より進めてきた検討を踏まえ、2030 年に年間 6 万トンの e-methane 製造を目指す。再生可能エネルギーにより生成したグリーン水素と、Peru LNG 設備から回収された二酸化炭素 (CO₂) を原料として e-methane を製造する。年間約 6 万トンの e-methane を製造・液化して日本などへの輸出やペルー国内に供給することを想定した検討を行う。2025 年の投資意思決定、2030 年の e-methane 製造開始を目指す。

参考資料: 各社発表

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp